

誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン

令和 7 年 5 月 1 日現在 江戸川区立西葛西小学校

全国学力・学習状況調査		
A・B層の割合		
年度	国語	算数
令和 8 年度の目標	75.0%	75.0%
令和 7 年度の目標	75.0%	75.0%
令和 6 年度の結果	73.7%	63.4%
令和 5 年度の結果	68.0%	66.0%

令和 6 年度江戸川区学力調査結果		
A・B層の割合		
学年	国語	算数
第 6 学年	69.6%	71.7%
第 5 学年	70.8%	81.0%
第 4 学年	63.2%	55.6%
第 3 学年	55.1%	53.8%

	目標達成に向けた取組		
	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	・「西葛西小学校学習スタンダード」に基づき、ノートの取り方・話し方聞き方について共通認識で指導にあたる。 ・「主体的に考え、自分の思いや考えを表現できる児童の育成」の研究主題のもと各学年の研究テーマに沿い、思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業研究を行う。	・低学年、中学年は毎週金曜日の朝学習で、個に応じた学習内容を設定する。 ・5年生、6年生は年間30回のよむYOMUワークシートを実施し、国語力の向上を図る。 ・一人一台タブレット端末を活用した授業を1日1回以上設定する。	・「宿題スタンダード」について、児童・保護者とも共通理解を図り、宿題に毎日取り組めるようにする。 ・「江戸川っ子study week」を年3回実施し、【学年×10＋10】分間の家庭学習習慣が身に付くよう協力を呼び掛ける。また、デジタルドリルの活用を推進する。
特に支援が必要な児童・生徒への手だて	・「自分なりのめあて」をノートやオクリンクに書き、振り返りができるように支援する。 ・全員が自信をもって答えられる問題を授業中に数問作り、自己肯定感を高める。	・4月の江戸川区テストの結果から適切に対象児童を選出した上で、4～6年生の児童を対象に放課後補習教室を実施する。 ・3年生以上の算数少人数指導を、学級数+2展開で実施し、CD層児童への学習内容の定着を図る。	・東京ベーシックドリルの診断テスト結果をもとに、朝学習や家庭学習を通して、苦手分野のデジタルドリルやベーシックドリルに取り組めるようにする。 ・study weekを節目にして、各学級でドリルパークの取り組み状況や宿題への取り組み方を児童と共有し、家庭学習に取り組めない児童も見通しをもって家庭学習に取り組めるようにする。
成果指標	・児童アンケートで「学習することが楽しいですか」の問いに「楽しい」と回答する児童の割合を85%以上とする。	・年4回実施のベーシックテスト及び江戸川区学力定着度テストで定着度を把握する。 ・第1回（4月）→第2回（7月）の平均正答率の10%UPを目指す。 ・3学期に実施される東京ベーシックドリル診断テストと江戸川区学力調査で、正答率50%未満（CD層）の児童を全体比10%以内とする。	・全国学力・学習状況調査の「授業時間以外の勉強時間」で学年×10＋10分以上と回答する児童を80%以上とする。